

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第28回総合企画専門委員会の審議概要について

1 開催概要

- (1) 日 時 令和3年1月29日（金）14：00～15：30
- (2) 会 場 サンセール盛岡3階 鳳凰
- (3) 出席者 委員9名（うちリモート参加1名）（別添名簿のとおり）
- (4) 議事
- ① 復興推進プランの進捗状況について
 - ② いわて県民計画（2019～2028）第1期アクションプラン「復興推進プラン」の改訂案について
- (5) その他（報告）
- ① （仮称）東日本大震災津波を語り継ぐ日条例について
 - ② 復興防災部の設置について

2 審議結果の概要（主な発言内容）

(1) 復興推進プランの進捗状況について

[高嶋委員]

・ 魚がとれないことが要因で水産業の不安が拡大していると思われる。他魚種への転換や高水温対応の取組、水産アカデミーの人材育成など水産業への不安が解消されるよう積極的に情報発信をしていってほしいと思う。

[菅野委員]

・ 水産業について魚が天然資源である以上は、不安定な要素が必ずある。宮古や釜石で行われているサケ・マス・トラウトの海面養殖などに県も力を入れていくことが必要ではないかと思う。

(2) いわて県民計画（2019～2028）第1期アクションプラン「復興推進プラン」の改訂案について

[小野寺委員]

・ 先日国会で国土強靱化の5か年加速化計画の補正予算が成立したが、多額の予算について年度内に契約が必要である。全体では、5年間で15兆円規模の予算であり、現場で着実に反映していけるよう、執行体制を整えていく必要があると思う。

[高嶋委員]

・ 不確実性の高いコロナウイルスだが、交流人口の拡大とコロナ対策で両立させていく必要があると思う。イベント関連の事業については、第2プランを並行して考えていってほしいと思う。

[菅野委員]

・ 交流人口の拡大に関連して、東北DCについては、コロナの収束にどのように合わせてキャンペーンを展開していくかが重要であると思う。

[谷藤委員]

・ コロナは一過性の影響で終わるのが定かでない。今コロナ禍の中で、半導体業界が自動車産業（車載系）からリモート系へ供給先をシフトした影響で、自動車の生産拡大に向けボトルネックができていく。このように産業の構造が変わってしまう状況は、東日本大震災津波の後、水産加工業でも実際に起きたことであるためコロナが落ち着いても元の構造に戻るとは限らず、注意深く見ていく必要がある。

[中村委員]

- ・ コロナ禍前に戻ることはなかなか難しい中、いかに地元の人に利用してもらえるかという点にもっと力を入れていく必要があると思う。三陸沿岸道路が完成に近づいているが、完成すると逆に車で通過されるという面も出てくる。三陸鉄道等を利用して、様々な市町村に降り立ってもらうため、市町村の魅力を再発見する取組が必要だと思う。

[齋藤委員長]

- ・ 地方創生と復興は表裏一体である。三陸鉄道の経営が軌道にのることは、すなわち復興の成功につながると思う。

[平山委員]

- ・ 水門工事の工期の延長はもとより、事業費が変更して大幅に増額になったりすると公共工事への不信感も出てくる。根本的・制度的な原因があると思うので、県でも率先して解決に取り組んでいてもらいたい。

[広田委員]

- ・ 防災意識が薄れてきていると思う。日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波の国公表のシミュレーションでは、久慈・宮古もそれなりの高さの津波が予想されるが、危機感に乏しい。
- ・ 復興推進プランの柱の1つである「安全の確保」については、ハードが中心となっている。伝承については、過去のこととして伝えたり、イベント中心になっていて、津波防災文化の醸成が不足していると思う。被災地であればあるほど、被害の実情などに触れにくい面もあるが、事実や教訓などを強く発信していく必要がある。

[南委員]

- ・ 移転跡地の活用、インフラの維持、グループ補助金の借入金返済、コミュニティ形成などの課題への指摘に対して、原因を探り、考察を深めていくこと、検証を繰り返していくことが重要である。
- ・ 2022年以降に復興推進プランを考える際、伝承事業を小分けにして一般施策（平常時の事業）に組み込んでいく必要がある。

岩手県東日本大震災津波復興委員会
第28回総合企画専門委員会出席者名簿

氏名	職名等	備考
齋藤 徳美	国立大学法人岩手大学 名誉教授	委員長
高嶋 裕一	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部長	副委員長
小野寺 徳雄	株式会社昭和土木設計 技師長	
菅野 信弘	北里大学 海洋生命科学部長兼三陸臨海教育研究センター長	リモート出席
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役	
中村 一郎	三陸鉄道株式会社 代表取締役社長	
平山 健一	国立大学法人岩手大学 名誉教授	
広田 純一	国立大学法人岩手大学 名誉教授	
南 正昭	国立大学法人岩手大学理工学部 教授	